



ザンビアで力量試し



島倉一雄さん

島倉一雄さん(三十歳・真木新田)は「自分の力量を試したい」と学生時代からの夢をかなえて、平成七年に青年海外協力隊員としてアフリカのザンビアへ赴任。今年の二月、およそ三年半の任期を終えて帰国しました。

同隊は隊員の技術や経験を生かし、発展途上国の技術援助に協力しています。島倉さんの専門は車の修理法。学生時代に得た知識と家業の車整備の技術を生かし、電気装置の仕組みや車体整備を指導してきました。「現地スタッフらと授業計画を立て、学校経営にも参加するなど充実していました。高校を出た生徒を相手に、最初は英語がうまく話せず授業が伝わらないときもありましたが、半年を過ぎるころからようやく慣れました。生徒はまじめで学ぼうという意欲がとても強かった」と島倉さん。「私の持てる知識・技術はすべて教えてきました。逆に、人の温かみと人間らしさなど教わることも多くありました」と話してくれました。現在島倉さんは家業を手伝う傍ら「隊員で得た経験を生かしたい」と、援助活動の専門家を目指して勉強中。新しい目標に向かって挑んでいます。

※資源保護のため再生紙を使用しています。※紙上の記事・写真の無断転用を禁じます。

古木老木の伝承

～ふるさとの木々～

サクラ

サクラは古来から、サクラの開花とともに田の神が山から里に降りるとい伝えられ、開花によって田を耕す時期を伝えてくれるといわれてきました。その年のサクラの花びらが大きく、長く咲いている年は豊作、そうでない年は不作といわれ、その年を占うことで、昔の人は春から食料の蓄えに備えたと伝えられています。一説では、その信仰が花見の起源になったともいわれています。また、ヤエザクラが満開のころになると、ナシの花粉付けを始める目安ともされてきました。古くは弥生時代からサクラの木の皮は咳止薬に使われたといわれています。材質



は乾燥するほど固さを増し、加工しにくいのですが、お盆や茶筒などの生活用品、造船、印刷用の版木、いろりの縁木などさまざまなものに用いられてきました。サクラの木自体の寿命はほかの木に比べ短く、普通は百年くらいで一生を終るといわれています。写真のサクラは、鷲巻桜町の公園に根を下ろしているソメイヨシノ。およそ九十年くらいの木です。

▶数字で見る市勢 ※3月1日現在 ※()内は前月比

人口	40,444人(-28人)
男	19,794人(-14人)
女	20,650人(-14人)
世帯	10,668戸(+4戸)
出生	20人 死亡 35人
2月中の転入	56人 転出 65人

健康ルーム

◎白根地区では、風合戦の準備が始まっています。骨組みになる竹を割ったり、紙を張って下絵を描いたり、風の町に春のにぎわいが訪れています。◎昔は300枚以上の和紙を張り合わせて24畳敷きの大風が作られていましたが、現在は幅1メートルほどのロール状の和紙を数回張り合わせれば、簡単に出来上がります。◎300有余年の伝統の中にも少しずつ変化が見られます。(ま

平成11年度 予算と施政方針

ごみの減量、順調に進む
お知らせ
みんなのページ
広がり健康家族
シリーズ・人
古木老木の伝承

